# 『致富新書』の訓点本

## ――和訳本との関連を中心に――

奥村佳代子

**要旨**　『致富新書』の訓点本は、1871年（明治４年）に漢学者平田宗敬によって翻刻された。和訳本『致富新論訳解』は、1875年（明治８年）に中島雄と讃井逸三によって翻訳された。『致富新書』の原書は英語であり、まず Samuel Robbins Brown（鮑留雲）が中国語に翻訳した。和訳本以前に、英語原書、漢文翻訳、訓点本があり、孫建軍（2014）が指摘するように和訳本は訓点本に基づいていると考えられる。

本論では、先行研究の考察を踏まえたうえで、訓点本の訓点が和訳本に影響を与えているかどうか、また、訓点本の伏せ字と英語原書、漢文翻訳、和訳とはどのような関係性かという点に焦点をあて、訓点本と和訳本との関連について細かな点を確認する。

**キーワード**　致富新書　経済　訓点　訳解　平田宗敬

### 《致富新书》的训点本
### ――以和日译本的关系为主――

**摘要**　《致富新书》的训点本于1871年（明治４年）由汉学家平田宗敬翻印。日语译本《致富新论译解》于1875年（明治８年）由中岛雄和赞井逸三翻译。《致富新书》的原书是英语，Samuel Robbins Brown（鲍留云）把它翻译成中文（文言）。在日译本之前，有英语原文、汉文翻译、训点本，正如孙建军（2014）所指出的那样，日译本被认为是基于训点本的。

本论文在先行研究考察的基础上将进行讨论两个问题；训点本的训点是否影响了和译本，训点本的空格字和英语原书、汉文翻译、日译是怎样的关系。通过以上两个侧面，确认训点本和日译本的关联的细节。

**关键词**　致富新书　经济　训点　译解　平田宗敬

## はじめに

Samuel Robbins Brown（鮑留雲）による中国語訳とされる『致富新書』は、1847年（道光27年）に香港で出版された（本論では『新書』と表記する）。その原書はJohn McVicker（1787–1868）の *Outlines of Political Economy*（1825）であるとの先行研究があるが、実際には朱鳳氏による指摘のとおり、John McVickarの *First Lessons in Political Economy*（1837）が原書であると考えるべきであろう[1)]。

日本では、1871年（明治4年）に漢学者平田宗敬によって訓点が施され翻刻されたものが『致富新書』として出版され（本論では訓点本と表記する）、1875年（明治8年）に漢学者中島雄と讃井逸三によって日本語に翻訳され、『致富新論譯解』と題して出版された（本論では『訳解』と表記する）[2)]。

## 1．訓点者と和訳者について

孫建軍（2014）、王斌（2016）によると、訓点本は版を重ね、公的機関でも読まれており、存在感と影響力のある書物の一つであった。

訓点を施した平田宗敬については明治の漢学者ということ以外は不明な点が多いようであるが、旧雨社という漢詩文の結社に所属していた。旧雨社は、昌平黌出身の漢学者藤野正啓（1826–1888）、重野安繹、岡千仞、坂谷素、小野長愿らによって創立された。上野不忍池の長酡亭で毎月開催されて

1）東アジア文化交渉学会第13回国際学術大会での朱鳳氏の研究発表「*First Lessons in Political Economy* と『致富新書』と漢字翻訳語」による。なお、本論での本書の引用は、カリフォルニア大学が提供元のGoogle Booksを用いる。

2）訓点本は東京篠菸軒版、『訳解』は東京松栢堂版である。

いた詩の会に、平田宗敬も参加しており、森春涛編『旧雨詩抄』（1877）の巻之下に詩が収められている。坂口（1988）によると、平田宗敬は幕末明治の人で生没不詳、江戸の出身、明治２年（1869）に東京府が中学校を設置した際にその教員となり、東京府と文部省の官員となった。その頃に旧雨社に参加し詩作を残している。旧雨社で重野安繹、川田甕江らと知り合ったことから修史局に席を置く機会を得て、その後は教育界に身を置いた[3)]。関連する伝記資料は乏しいが、平田宗敬によって校正が施された翻訳書が『新書』以外にもいくつかあることからもわかるように、明治時代の日本人の新しい知識の獲得のためのひとつの役目を果たした人物であった。

東亜同文会（1968）によると、『訳解』の和訳者の一人である中島雄は嘉永６年５月に江戸の代々続く幕臣の家に生まれ、明治に入り静岡に移り、後に東京に出て同人社に入学し漢英いずれにも秀でた。勝海舟の知遇を受け寺島外務卿に推薦され、明治11年11月に清国北京公使館付二等書記官見習となり北京に赴任してから、外務三等書記生、交際官試補、公使館三等書記官、二等書記官を歴任し、明治36年まで北京に駐在した。漢学の素養に長けること中国人にも引けをとらなかったばかりでなく、「行文流暢、荘重達意の筆を振るい、北京公使館の公文に千鈞の重み」を与えたと、その文章と学才が高く評価された[4)]。この経歴から、中島雄が『新書』を和訳したのは、

3）坂口（1988）に『旧雨社小伝』を引く。「平田宗敬。字簡夫。号虚舟。江都の人。父何某、上毛の人。惟を都に下す。簡夫家学を受く、明治己巳、東京府始めて中学を建てるや、小笠原修之、岡天爵輩とともに擢られて教員と為る、後に東京府、文部省に歴し、並びに編修の事に任ず、訓詁に精しく、誤りを正し謬を訂し、点画遣ること靡し、詩文は其の専業に非れども、往々にして佳作有り」。なお、訓点本の奥付には「平田一郎」とあるが、一郎は平田宗敬の通称であった。また、王斌（2016）は『早稲田文学』第４号「時文評論」（1892年）を引き、平田宗敬が「漢学者の集まる旧雨社の部員であり、漢学活動も行われていたことは確かであろう」（39頁）と述べている。

4）東亜同文会（1968）「中島雄」（『對支回顧録』下巻列伝、207–211頁）に、「明治初年以来日支外交場裡、樽俎折衝の換話通訳に任じ、相互の意思疎通に間然する所なからしめたものは、長崎唐通事より伝統せる鄭、呉、彭城、穎川、鉅鹿の諸氏を始めとし、必ずしもその人に乏しからず。独り日本固有の漢籍の素養に依て、彼の国の翰林学士等の宿儒碩学を向うに廻はし一歩の引けを取らなかった斗りでなく……当時我対支外交舞台の誇りであった」「その文と書とは支那人をして驚歎せしめ、曽て総理衙門事務大臣た

北京に赴任する前であり、同人社で学び勝海舟の門下生となっていた頃であろう。孫（2014）は序文を書いた中村敬宇が翻訳を依頼したものであろうとしている。

## 2．訓点本と『訳解』の構成

『新書』、訓点本、『訳解』の目次内容の比較結果は王斌（2016）によってすでに表示されているが、全体の構成は表1のとおりである。

訓点本は、基本的に『新書』の本文に訓点を付したものである[5)]。

表1に示したように、『新書』と『訳解』には、序文の他に例言と目録が付されているが、訓点本には序文以外は含まれていない。

また、本文の配列の点で、孫建軍（2014）、王斌（2016）に指摘されているように、訓点本は原書全19章の最後の3章分だけが、原書及び『新書』とは異なっており、「論用銀格」から「論求財」までは原書どおりにいずれ

---

りし袁昶の如きは、君の筆に成る我公使館の公文を見て、君をして若し支那に生れしめば、差向き翰林院出仕たるべしと評したといふ」などとあり、中島雄は特に文を高く評価されていた。

5）訓点本は『新書』を謄写したものを用いており、序文によると文苑閣という本屋に求められ翻刻に校正を施し、疑わしい部分や誤りと思しき部分ものままにしている、という。以下に序文を挙げる。句点は原文と王斌（2016）を参考にした。

翻刻致富新書序

致富全書行於世既久矣。其為書難未必無所裨益。而頗渉煩瑣迂迴。於經濟之理似不的由。此編合衆國人所撰述。其論尤的確允當。所主在勤儉。人人可能知可能行。至于通商貿易。則最致意。要之無復迂回煩瑣之弊。實可謂得當今經濟之要者矣。凡讀此書者。能得其理。則施之於家於國於天下。無適而不可。雖能運用之妙。盖存於其人。所謂人能弘道。非道弘人也。頃者書肆文苑閣欲翻刻之。請余校正。但原本係于謄寫。不免牡丹無千歳之誤。別無善本可據。疑以存疑。誤以傳誤。姑仍舊貫。不敢妄付鄙見。將竢他日得善本再校之讀者亮之

明治壬申維暮之春

平田宗敬撰

また、訓点本の本文の末尾には「道光二十七年鐫」とあるが、これは『新書』『訳解』にはない。

表１　「構成」

| 『新書』 | 訓点本 | 『訳解』 |
|---|---|---|
| 致富新書序 | 翻刻致富新書序 | 致富新論譯解序 |
| 例言 | | 例言三則 |
| 目錄 | | 目録 |
| 本文 | 本文 | 本文 |
| 論用銀格 | 論用銀格 | 金銀ヲ用フル道ヲ論ズ |
| 論百工交易 | 論百工交易 | 百工ノ交易スルヲ論ズ |
| 論商事、其二 | 論商事、其二 | 商事ヲ論ズ、其二 |
| 論貿易 | 論貿易 | 貿易ヲ論ズ |
| 論工藝 | 論工藝 | 工藝ヲ論ズ |
| 論農工商賈、其二 | 論農工商賈、其二 | 農工商賈ヲ論ズ、其二 |
| 論土地 | 論土地 | 土地ヲ論ズ |
| 貧富分業 | 貧富分業 | 貧富ノ分業ヲ論ズ |
| 論用銀益人 | 論用銀益人 | 銀ヲ用ヒ人ニ益スルヲ論ズ |
| 論物貴重 | 論物貴重 | 物ノ貴重ヲ論ズ |
| 論市價 | 論市價 | 市價ヲ論ズ |
| 論平賤 | 論平賤 | 平賤ヲ論ズ |
| 公務 | 公務 | 公務 |
| 學業 | 學業 | 學業 |
| 貧約 | 貧約 | 貧約 |
| 論求財 | 論求財 | 財ヲ求ムルヲ論ズ |
| 處世良規列左 | 論用銀、處世良規列左 | 用銀ヲ論ズ、世ニ處スル良規左ニ列ス |
| 論用銀、用銀之例 | | |

も並んでいるが、その後が訓点本及び『訳解』は同様に異なっている[6)]。この点からは、『新書』と『訳解』の関連性よりも、訓点本と『訳解』との関連性を強く推測させるが、『訳解』の例言には次のようにある。

例言三則

一此書原本ハ彌利堅人鮑留雲氏ノ撰ニシテ西暦一千八百四十七年ニ公行スルモノナリ書中致富ノ道ヲ説クニ勤儉ヲ崇トビ遊情ヲ戒シムルヲ以テ

6）『新書』は英語原書と同じく、「論求財」の後は「處世良規列左」「論用銀」の順であるのに対し、訓点本は「論求財」「論用銀」「處世良規列左」の順に入れ替わっており、『訳解』でも訓点本と同様に「財ヲ求ムルヲ論ズ」「用銀ヲ論ズ」「世ニ處スル良規左ニ列ス」の順である。

眼目トシ簡ニシテ意餘アリ約ニシテ見狹カラズ經濟學ノ門ニ入ル最善ノ書ナルユエ邦人既ニ翻刻ノ舉アリシガ漢文ニシテ童蒙或ハ讀ミ解シ難カラント思ヒ淺陋ヲ顧ミズコレヲ國文ニ譯スルモノナリ

一翻訳ノ主意ハ原書ノ旨義ヲ失ハザルヲ要トス故ニ今此書ヲ訳スル寧ロ拘泥ニ失スルトモ敢テ浮乏ノ語ヲ用ヒズ讀者之ヲ諒セヨ

一毎篇譯者ノ言ヲ附錄スルモ全ク我輩自己ノ臆説ニ出ルニ非ズ概ネ空蘭德氏義里士氏ヲ首トシテ西國先哲ノ議論ヲ纂緝シ經濟致富ノ道ニ於テ相發明シ易カラシメンコトヲ期スル訳者ノ婆心ナリ苟モ童蒙此等ノ書ヨリ發轂シ潛心刻苦シテ他日空義諸氏ノ原書ニ就キ其本義ヲ得ルニ至ラバ訳者ノ厚望コレニ過ギズ

『訳解』の「例言三則」には、『新書』は経済学入門の最善の書物であり、早くに翻刻されたが漢文であり必ずしも解読は容易ではないため日本語に翻訳することによって読者層を広げること、ただし原書の言葉の意味を失わないために細かな点にも拘り、ただ単にわかりやすくするために表面的な語を用いることはしないと述べられている[7)]。

また、「原本ハ彌利堅人鮑留雲氏ノ撰ニシテ」とあり、『訳解』の原本は『新書』であるとのことである。『新書』が事実上の原本として、訓点本、『訳解』ともに引き継がれていることは、次の例にも確認することができる。『新書』には英語原書にはない付け足しがあり、中国人が理解しやすいように工夫をしたと考えられる[8)]。それが、訓点本だけでなく『訳解』でも踏襲されている。

Lesson I. MONEY（英語原書）

What a useful thing is money! If there were no such thing as money, we should be much at a loss to get any thing we might want.

---

7）つまり、『訳解』は訓点本が「漢文ニシテ童蒙或ハ讀ミ解シ難カラン」ことを確認したうえで訳解が施されたものであると言える。

8）中国語翻訳本には、礼記や孟子なども多く引用されており、訓点本、和訳本にも踏襲されている。

「論用銀格」[9)]

夫銀之為用於天下也大矣哉。上棟下宇者銀也。重裀叠褥者亦銀也。即食前方丈。僮僕滿前者。又銀以為之上也。此天下之人。莫不資銀以應日用之事。使天下而並無銀也。則人将何以沽物乎。

「金銀ヲ用フル道ヲ論ズ」

金銀ノ用ヲ世間ニナスコト至便ナルモノニテ人〃家屋ニ住ヒ被衾ニ寝ルモ金銀ニヨル多ノ鼎俎ニ飲食シ許多ノ奴僕婢女ヲ使令スルモ又金銀ニヨルソノ他世間日用ノ諸万事一モ是ニヨラザルモノナシ苟モコレヲ欠トキハ人〃何ヲ以テ銘〃須用ノ物品ヲ買ヒ得ベキヤ[10)]

上の引用の下線部は英文原書にはなく、『新書』、訓点本、『訳解』に見られる部分である。『訳解』の例言どおりであれば、『新書』で鮑留雲によって補足された部分が、原本として『訳解』まで継承されていることを示すものである[11)]。

ただ、ここで先述の構成面の相違点に立ち返ると、『訳解』はむしろ訓点本に基づいた可能性もあり得るだろう。

試みに「處世良規列左」の部分を取り上げて、三者を比べてみよう[12)]。

處世良規列左（『新書』）

一曰、務勤勞、惜分陰、長才智、此是求財之本根。

二曰、尚節儉、不論財之多少、量入爲出、不可亂用。

三曰、要節制、凡物不合用者、不宜售之。

四曰、立志最重、勿謂今日不儉、姑待他時。

五曰、處事務宜心滿足、常存感謝之念人生又要快樂、快樂則功易做、且

9）翻訳本と訓点本の例としてまとめて提示する。訓点本の翻訳本との違いは、訓点本には返点が付されていることと伏せ字があることである。

10）下線部冒頭の「人〃」は蔵書印に隠れており判読しがたい。おそらく「人〃」であろう。

11）かといって、『訳解』が『新書』のみを原本として参照したものであると見なすことができるほど、その編纂経緯は単純ではなさそうである。孫（2014）は、章立ての特徴から、『訳解』が参照したものは『新書』ではなく翻刻版（訓点本）であると推測している（315頁）。

12）句読点はそれぞれの原文に基づく。

寢寐常安、兼令旁人爽快、此又勝於僅富者也。

處世良規列左（訓点本）

一曰、務二勤勞一、惜二分陰一、長二才智一、此是求レ財之本根、

二曰、尚二節儉一、不レ論二財之多少一、量レ入為レ出、不レ可二亂用一、

三曰、要二節制一、凡物不レ合用者、不レ宜レ售レ之、

四曰、立レ志最重、勿レ謂二今日不レ儉、姑待二他時一、

五曰、處二事務一、宜二心滿足常存二感謝之念一、人生又要二快樂一、快樂則功易レ作、且寢寐常安、兼令二旁人爽快一、此又勝二於僅富者一也、

世ニ處スル良規左ニ列ス（『訳解』）

第一ニ曰ク勤労ヲ務メ分陰ヲ惜ミ才智ヲ長ス此ハ是財ヲ求ムルノ本根

第二ニ曰ク節儉ヲ尚トビ財ノ尋少ニ係ハラズ一年中ノ入ルヲ量リ出ルヲ為シ乱用スベカラズ

第三ニ曰ク節制ヲ要ス凡ソ物何ニ限ラズ用ニ合ハザルモノ宜シク售フベカラズ

第四ニ曰ク志ヲ立ル最モ重ク今日儉約セズト好〃姑ク他時ヲ待ツト謂フコト勿レ

第五ニ曰ク事務ヲ處置スル宜シク心（ロ）満足シテ常ニ感謝ノ念ヲ存スベシ人生亦快樂ヲ要ス快樂スレバ功作リ易シ且ツ寢寐常ニ安ク兼テ旁人ヲシテ爽快ナラシム此レ亦僅カニ冨メルヨリ遥ルカニ勝ルナリ

訓点本は、『新書』に点を施したものであり、送り仮名は付されていない。『訳解』は、訓読ではないため、『新書』にも訓点本にも用いられていない「好〃」「遥ルカニ」という語が用いられ、「一年中ノ」「何ニ限ラズ」という表現が加えられている。「不論」を「係ハラズ」、「不儉」を「儉約セズト」と訳している。『新書』と訓点本で用いられている「又」という字を『訳解』では「亦」にしている。こうした違いはあるが、いっぽうでその他については訓点本の訓点に合致した読み方をしている[13)]。

13）これは、漢学に長けた訳解者による偶然の一致である可能性もあるが、訓点本を参照したことと矛盾しない特徴であるため、特に触れておきたい。

構成の一致状況と、『訳解』に見られる訓点本と合致した読み方という二つの点は、訓点本が『訳解』を著す動機のみに留まらず、『訳解』の内容にも関わっていたことを否定するものではないと言えるだろう。

## 3．伏せ字をめぐって

訓点本には伏せ字がある。王斌（2016）及び孫（2014）で言及されているように、訓点本刊行当時は公的にはキリスト教は禁じられていたためだろうと考えられるが、ここでひとつひとつ見ていこう。訓点本で伏せられた翻訳本の語は次のとおりである。なお、『新書』と訓点本は一つにまとめて、英語原書、『新書』と訓点本、『訳解』の順に提示する。訓点本は『新書』の□で囲まれた語が伏せられ□で置き換えられている。

### ①上帝

伏せ字の大半は「上帝」という語である。『訳解』での訳語に当たる語を□で囲んで表示する。

Lesson I. MONEY

… What time and trouble it must have cost to exchange one thing for another before money was in use!

4. We ought to be thankful for all the good things which Providence gives us, and to be careful to make a right use of them.

「論用銀格」

且吾人當未用銀之時。而思人生輾轉相易之難。奔馳到處之苦。則感上帝之惠我良深。便當用之而有道。有道以用之。庶無負於 上帝之恩矣。夫用之有道者。莫善於施濟。哀孤恤寡。敬老憐貧。此用銀之善法。仁人之所樂為者也。

「金銀ヲ用フル道ヲ論ズ」

抑モ今日ニ當ツテ我輩共向ニ未ダ金銀ヲ用イザル時ノ手数不都合ノ困苦

ヲ考エ出セバコノ便利ノモノヲ以テ我輩共ニ恵ミシカノ造物主ノ深恩ニ感ゼザルベカラズ苟モソノ深恩ニ感ゼバコレヲ用フルニ道アルベシコレヲ用フルノ道ハ孤ヲ哀シ寡ヲ恤ミ老ヲ敬イ貧ヲ憐ム等ノ施済ニ外ナラズコハ金銀ヲ用フル最善ノ法ニテ志士仁人ノ為スヲ楽ムモノナリ

Lesson IV. THE MERCHANT

8. To forbid trade among nations, is, therefore, a very unwise thing; but it is also a very wicked thing, for it is contrary to the will of God. For what other reason, do you suppose, has he given to different countries, but that they should freely exchange with each other, and thus all be happier and more comfortable?

9. Why has he made great rivers to flow through largo countries? And why has he separated continents by seas and oceans, but that they might be able by means of ships to carry and exchange the produce of distant places and countries?

11. Such is the blessing of seas and oceans, and such no doubt was the intention of our Heavenly Father, in forming our earth out of land and water; not to separate nations, as some think, and make them mutually useful, by each exchanging its own productions for those of others, and thus to make all happier, by giving them more enjoyments and more comforts than they could otherwise have had.

「論商事」

故禁商旅之事。豈非不智之甚哉。而又非不智已也。且達　上帝之法。罪莫大焉。上帝創造萬國。列國之地氣各殊。所以列國之物產各異。欲人交相為易有無相通。故　上帝疏通致遠造大洋而小海。而各國之人。籍大舟以往來。惟托　上帝之鴻恩也。故中華之邦……

然　上帝之造天地。有地必有海。一定之數也。非若無智之徒。謂造此以別各國分疆界。尓為尓。我為我。以致結怨為仇也。

「商事ヲ論ス」

商人ニ禁令ヲ下スハ無智ノ甚シキト云フベシ啻ニ無智ノミナラズ造物

者ノ法ニ違フベシ造物者万物ヲ創造シ各国各邦ヲ造リソノ土地ノ替ルコトカラ品モ替ルユエソレ等ノ有無ヲ通エシメンガ為ニ大洋小海ヲ造リ各国ノ人舟楫ニ由テ各邦ニ通ゼシムソレユエ支那モ……
コノ至便ナルモノヲ無智ノ徒ハ造物者コレヲ造リ各国ヲ別チ疆界ヲ限リ尓ハ尓タリ我ハ我タリトセシムト謂エルガコハ甚シキ迷謬ナラズヤ

Lesson V. THE MANUFACTURER

6. All this we owe to that stiff clay which at first was thought to be of no value. So true it is that God hath made "all things good," and "nothing in vain;" and hath given to man reason and skill to find out their uses, and hands to work them to suit his convenience. Look, too, at the manufacturer in wood.

「論工藝」

上帝之造物。盡善盡美。莫有虚造之者。 上帝賦人以才能。而人心靈手妙。創造得宜。以便吾人之日用者。何其恩之大也。今且以工木之工而論之。

「工藝ヲ論ス」

造物者ノ物ヲ造ルハ実ジ善ヲ尽シ美ヲ尽シ何一ツトシテ虚ニ造リシモノナク人ニ與フルニ才智ヲ以テシソレヲ用イテ万有ノ物ヲ製造セシメ日用ノ便利ヲ達セシムルハ鴻大ノ恩沢ト云ウベシ

Lesson VI. THE FARMER

4. Those who live in the country have few cares, and many innocent pleasures, and may be said to have God always before their eyes, in all the wonders of creation around them. They are safer, too: if they do not make fortunes like the merchant, neither do they like him fail and become bankrupt.

「論農工商賈」

耕田而食。鑿井而飲。刀鋸不至。黜陟不聞。採於山。美可茹。釣於水。鮮可食。逍遙於化宇之下。常沾 上帝之恩。而覺 上帝如在其上。如在其左其右。此中之樂。固有自然而然者矣。

「農工商賈ヲ論ス」

田ヲ耕シテ食イ井ヲ鑿テ飲ミ難儀ノ刑罰モ来ラズ有司ノ進退ニモ関係セズ實ニソノ間ニ自然ノ楽ミアルナリ

Lesson VIII. LAND

1. How comes it that some have land and other none? Is it right that it should be so? Would it not be much better that land should be equally divided, so that no one should be rich enough to be idle, or so poor as not to have enough for himself and children; so that there should be no idleness and no beggars throughout our country?

2. No doubt all this would be a very good thing, if it could be managed; for God gave the earth a habitation for all men. He never intended that some should have so much as to make them idle and luxurious, nor that any should be so destitute as to have neither bread to eat nor clothes to cover them. But the question is, How can it be managed?

3. A trial would show that, in endeavoring to make men equal in their property in land, we should do them a hundred times more harm than good; we should only make the rich to be poor great del worse off than at present, by taking away from the rich the means of employing and feeding them.

「論土地」

夫土地者　上帝造之。下民有之。而或相倍蓰。或相什佰。或相千萬者。何也。富者田連阡陌。貧者地無立錐。蓋有道於其間也。設若土地平分。萬民得所。而富者怠慢不生。貧者俯仰有資。不至富者日食萬錢。貧者家無擔石。風俗何其隆歟。如有術以均平之。不亦善乎。蓋　上帝之造土地也。本不欲使富者驕傲其有餘。貧者衣食之不足。然所難者。不知將何法而土地可以齊一也。夫尓原無田宅之福命。而欲坐享乎田園。雖虔求于　上帝。上帝其許之乎。且土地平分。不獨無益於天下。而且反害於天下。此何故哉。是富者貧。貧者益極矣。何也。貧者藉傭工以營生。既無工之可營。何以生為。

「土地ヲ論ス」

造物者ノ造リシ土地ヲ下民コレヲ有スルニ各相違アリテ富人ハ阡陌ヲ連ヌル程ノ田畠ヲ所持シ日ニ萬錢ヲ食ムトイエドモ貧者ニ至テハ錐ヲ立ル程ノ土地モ所持セズ家ニ擔石ノ儲ヘナシ今コレヲ平均シテ万民ニ所ヲ得サシメ富人ヲシテ怠慢ヲ生ゼズ貧者ヲシテ俯仰資アラシメバ至極善キコトカト思ハルルナリ蓋シ造物者ノ土地ヲ造リシハ本来富人ヲシテワガ有餘ニ驕傲シ貧者ヲシテ衣食ダモ足ザラシムルヲ欲セザレトモ畢竟土地ノ平均ハ決シテ為シ難キモノナリ且土地ヲ平均スルハ獨リ天下ニ益ナキノミナラズ反テ天下ニ害アルコトナリソノ故ハ富者ハ次第ニ貧シク為リ貧者ハ更ニ貧ニ趨ク故ナリ如何トナレバ貧者ハ今迄傭作日工ナドヲ為シテ生活ヲ為セシコトユエ既ニ工ヲ営スルニ由ナク何如様ニシテ又生活ノ道ヲ立ルコトナルヤ

②寳羅・耶蘇・(救) 世主

それぞれに該当する語を□で囲んで示す。

Lesson XVX. HOW TO USE MONEY

3. First, “To provide,” as St. Paul says, “for our own household.” It certainly makes us happy to be the means of making comfortable those whom we love and who love us.

Second, To relieve the poor and the sick and the wretched. This makes us happy, for it makes us like our blessed Saviour.

4. Third, To aid in supporting schools, and instructing the ignorant, and making all mankind good and happy.

5. Fourth, The last use of money is, to teach us not to think money worth too much. Our blessed Saviour says, “Man’s life”-that is his happiness-“consisteth not in the multitude of things that he possesseth.” Now this every rich man finds by experience; he finds that all wealth is vanity, which does not make him “rich in good works,” and “wise unto salvation.”

「論用銀」

其一曰。循寶羅有言。先備家裡之用。則家人安樂。相親相愛。而天倫有樂矣。

其二曰。救施貧窮。以效耶穌之行。何樂如之。

其三曰。捐銀以養瞽者。並教愚蒙。是成人之美。亦可樂也。

其四曰。銀不可過重。救世主有云。人生之樂。不在夫物之多。此說富人既歷其境。無不覺也。覺天下之富。眞等於浮雲。使之多行好事。以救世人之靈明。願諸君子力行之。

「用銀ヲ論ス」

其一ニ曰ク先ヅ第一ニ家裡ノ物件需用ヲ不足ナク備具スレバ家人安樂相親愛シテ天倫ノ樂ミアリ

其二ニ曰ク貧窮人ヲ救施シ以テ救主ノ行ニ效フ何ノ樂ミガコレニ如ン

其三ニ曰ク銀ヲ捐テ以テ廢疾ノ瞽者等ヲ養ナヒ並ニ愚蒙ヲ教育ス是レ人ノ美ヲ成ス亦樂シムベキコトナリ

其四ニ曰ク銀ヲ重ンズルコト度ニ過グベカラズ救世主ノ云ルコトアリ人生ノ樂ミ夫ノ物過ヂニ在ラズト此ノ説富人既ニソノ境界ヲ歴ツノ味ヲ覺ヘザルハナシ天下ノ富真トニ等シキヲ覺ユ

③而

「而」のいくつかが伏せ字となっており、「學業」の章に集中している。『訳解』に「而」に該当する部分がある場合には下線で示す。

Lesson XV. ON EDUCATION

2. Now is it not precisely the same case with the natural powers of *mind*? So long as they remain uncultivated, are they not valueless? Nature gives, it is true, to the mind talent, but she does not give learning or skill; just as she gives to the soil *fertility*, but not wheat or corn. In both cases the labor of man must make them productive.

「學業」

荷負其心。而蹉跎日月。徒為旁觀者之愾息矣。天賦之以靈明。未嘗賦之以學問。猶地有肥磽。而未嘗有黍禾。兩者雖殊。而冀其有成者則一也。夫人具此靈明之心。而虚擲年華。不學無術。則茅塞其心矣。故聰明蘊諸內。念坐名山而惜日月。(中略)

而賢才所以別於庸愚也。彼庸常之輩。居於市廛。儼然貿易而工價無多。(中略)

而西方之美人。莫盛於單鷹。蓋其人亦學亦博。賢而有才。德脩而能優。夫邦國之安。必籍。賢才以治之。所以一人有慶。兆民賴之者。猶賢才居於上而庶民安於下也。賢者幼而學。壯而行。使年少不學。必長大無成。則負吾靈明之心矣。故當其少也。教之以大道。及其長也。博學而成名

「學業」

荷モ其心ヲ負ナガラ空シク日月ヲ蹉跎スルハ洵ニ愾息スベキコトナリ造物主人ニ賦スルニ霊明不思議ノ性徳ヲ以テスナレドモ未ダ賦スルニ学問ヲ以テセズ猶ヲ地ニ肥磽ノ異アリ未ダ最初ヨリ黍禾ノ自然ニ生植テアラザルガ如シ両ノ者殊ナリト雖ドモソノ成ルヲ冀ウハ一ナリ人ニ此ノ霊妙ノ心ヲ具ナガラ虚ク年華ヲ擲学問芸術モ習ワザレバ芽ツノ心ヲ塞グトテ雲霧ノ日月ノ光ヲ敝フガ如ク（中略）

賢才ハ庸愚ニ分別スルトコロナリ彼ノ庸常ノ輩市廛ニ居リ人並ラシク商買スソノ一人前ノ工價何程モナシ（中略）

西方之人西方ノ中ニモ獨逸ヲ最トス蓋シソノ國ノ人學問博ク藝術ニ長シ賢ニシテ才アリ徳脩テ能ク優ナリ夫レ邦國ノ安寧ハ必ズ籍テ治メラルヽガ故ナリ一人慶アレバ兆民コレニ頼ルノ所以モ猶賢才上ニ居リ庶民下ニ安キガ如キナリ賢者幼少ニシテ學問シ壮年ニシテ實地ニ行ナフ若シ少年ヲシテ教育セザレバ必ラズ長大ノ時ニ至テモ決シテ成業ナク吾ガ天ヨリ授カリシ霊明不思議ノ心ニ負ムク後悔ハ先キニ立タズ故ニソノ年少ノ時ニ當テ教ユルニ聖賢ノ大道ヲ以テシソノ成長スルニ及ンデハ博ク學シテ天下ニ美名ヲ顯ハス

全ての伏せ字の各版での語を表 2 に示す。

表2　「訓点本の伏せ字に該当する語」

| 英語原書 | 『新書』 | 『訳解』 |
|---|---|---|
| Providence／God／Heavenly Father | 上帝 | 造物主／造物者 |
| Paul | 寶羅 | 訳されていない。 |
| Saviour | 耶穌／世主 | 救主／救世主 |
| 不明 | 而 | 「ナガラ」という語が用いられている箇所もあるが明確に訳されていない箇所が多い。 |

表2で注目したい点は、『新書』で「上帝」「耶穌／世主」と訳された語である。表に示したように、英語原書で異なる語で表されているものが『新書』では「上帝」に統一され、『訳解』でも「造物」という同一の語で訳されている。また、英語原書で2箇所で使用されている同一の語が『新書』では「耶穌」と「世主」に訳され、『訳解』ではそれぞれ「救主」「救世主」と訳されている。この箇所は、図1のように、「救世主」を1語として伏せ字

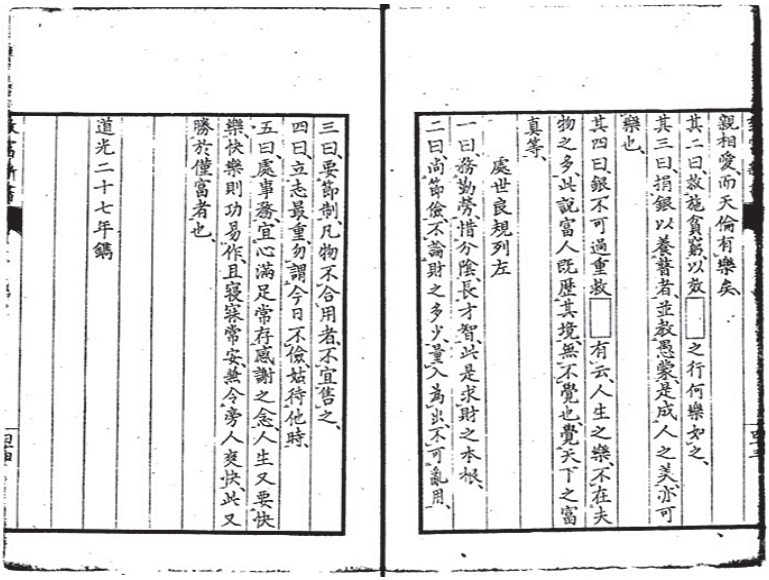
親相愛而天倫有樂矣
其二曰救施貧窮以救□之行何樂如之
其三曰捐銀以養瞽者並教愚蒙是成人之美亦可樂也
其四曰銀不可過重救□有云人生之樂不在夫物之多此說富人既歷其境無不覺也覺天下之富貴等
處世良規列左
一曰務勤勞惜分陰長才智此是求財之本根
二曰尚節儉不論財之多少量入為出不可亂用
三曰要節制凡物不合用者不宜售之
四曰立志最重勿謂今日不儉姑待他時
五曰處事務宜心滿足常存感謝之念人生又要快樂快樂則功易作且寢寐常安無今旁人爽快此又勝於僅富者也
道光二十七年鐫

図1　「訓点本の伏せ字」

にしているのではなく、「世主」に当たる部分のみが伏せ字となっている。

また、上に引用した「學業」の二重下線部は、英語原書の “Nature” が『新書』では「天」と訳され、訓点本でもそのまま「天」が用いられ、『訳解』では「上帝」に対する訳語と同じ「造物主」が用いられている。

## まとめ

本論は、訓点本を中心に、構成面と伏せ字の扱いの面から、特に『訳解』との関連に焦点を当てようとした。

構成面は、『新書』よりも、訓点本と『訳解』との関連性が見られる。また、その位置が根拠となった「處世良規列左」の『訳解』の訳し方には、訓点本の訓点との合致が見られた。訓点本は『訳解』の完成に大きく関連していたと言えるだろう。

訓点本の伏せ字は、『新書』に登場する「上帝」「寶羅」「耶穌」「救世主」と一部の「而」である。前者は、キリスト教が公認されていなかったことによる伏せ字であると考えられるが、「而」を伏せ字とした理由はよくわからない。

『訳解』に伏せ字はない。キリスト教関連の言葉は、「上帝」が伏せ字となっていた箇所は「造物主」または「造物者」を用い、それ以外の語には「救世主」「救主」が用いられているが、「寶羅」の部分は訳されていない。『新書』で「上帝」が用いられ訓点本で伏せ字となっている場合にも訳していないところがある。また、伏せ字ではない「天」に「造物主」という訳を当てている。

「救世主」「救主」と訳された部分については、英語原書では “Saviour” である。『新書』で「上帝」と訳した英語原文は “Saviour” ではなく、「救世主」「救主」が “Saviour” の訳語として用いられているのであれば、適切で意図的な訳語であると言えるだろう[14)]。ただ、『新書』で「救世主」が用いられてい

14）また、和訳者は英語原書を参照したのではないかとの推測をも呼び起こすが、そうであるなら “St.Paul”（『新書』では「循寶羅」）を訳さなかったことには何か別の理由があったのであろうか。

ることから、『新書』を参照すれば訳語としての使用に結びつく。また、訓点本において「救」という一文字が伏せられなかったことにより、「救世主」という語が導かれたと考えることも可能である。

英語原書では明確にその語を用いてはいない箇所、あるいは代名詞を用いている場面においても、『新書』は積極的に「上帝」という語を使用している。訓点本はそれらすべてを伏せ字としているが、『訳解』は不要なキリスト教関連語を敢えて訳そうとしてはいない。このことは、『新書』が宣教師の訳した経済学書としての特徴を有しているのに対し、『訳解』は経済を説明することを第一の目的としたことの表れのひとつであろう。

付記：本論は、科学研究費助成事業基盤研究 (C)（研究代表者：朱鳳（京都ノートルダム女子大学）研究課題「明治維新期における漢字翻訳語の歴史的・言語的構造に関する多角的研究」）における研究成果の一部である。

## 参考文献

坂口筑母（1988）『幕末維新儒者文人小傳』第 2 集，721–726 頁，山和印刷.
東亜同文会（1968）『對支回顧録』下巻列伝，207–211 頁，原書房.
孫建軍（2014）「三つの『致富新書』とその周辺」『東アジアにおける近代知の空間の形成』305–328 頁，東方書店.
王斌（2016）「明治初期における経済学翻訳の一齣」『翻訳研究への招待』第15号，33–46 頁.

奥村佳代子　Okumura Kayoko　関西大学教授　専門：中国語学